

# たまいたま

## 川柳



### 巻頭言

#### 皮肉な倫理ということ 願法みつる

勝手な推論である。一神教の倫理観は正か邪の背反の世界だから、邪と見なす相手に対する攻撃は徹底している。一方、多神教の倫理観は正も邪も取り込んだ混沌の世界だから、自然界そのものであり、ファジーである。ところが地球上では更に、建前上の無神教という勢力もある。神は本当に戦いが好きな様だ

一神教・多神教・無神教の勢力の対立では、均衡とか統合の和の概念が異なる。妥協が可能な約束が具体的に仲々統一できない。妥協も束の間で直ぐに新たな矛盾が生じてくる。果てのない地球の輪廻である。

地勢的にちっぽけな島国でさえ、孤高独立もならず、自由主義がもたらす一神教的考え方と、伝統体質が残る多神教的あるいは無神教的な無秩序が混濁してしまっている。そこでは人間の尊厳だとか権利義務や責任の建前を論じながら、貧富や勝敗ばかりが善悪交々に主張されている。しかし、弱肉強食が自然の理だから、これを倫理の根本にするべきだとも言える。

ともあれ、鎖国時代の日本は優雅な倫理地勢であったと言えないか。俳諧の世界も情緒豊かな姿だった。それが近代化した今、殺伐とした倫理蔓延の時代になってしまった。川柳句材的には、皮肉な世界である。

### 九月号 目次

わたしの好きな句	宮本彩太郎	表紙	2
巻頭言 皮肉な倫理ということ	願法みつる		1
彩玉集——同人吟	文・今村 寿子		5
古丘の世界	願法みつる選		6
雑詠	石田 正則		6
映像川柳	編集部選		14
七七句			
ふるさと紀行			
「私のふるさととは化学の里」	石田 隆宏		17
私の夏景色「風鈴への思い」	小林 榮子		19
「初めての独り旅のこと」	若月 葉		20
交替鑑賞（八月号より）雑詠を詠む	木崎 栄昇		22
随想「暗号句ということ」	願法みつる		24
初歩添削講座「あつい」雑詠	加藤孤太郎		25
題詠			
「出 番」	小高 啓司	選	29
「なかなか」	大澤 静江	選	25
「通 る」	竹内田三子	選	24
さいたま八月句会			
大会等ご案内			
編集さるん			
句会案内			
表紙（題字・清水 美江 写真・千葉 古丘）			
	表紙		31
	表紙		3
	表紙		4

平成26年

9 月号 (No.658)

日川協加盟